

評論を読む・評論を語る

使用教材：「聴くということ」（三年）

東京都港区立赤坂中学校教諭
甲斐利恵子



今回は、三年三学期の教材「聴くということ」を使った授業をご紹介します。

この教材は、哲学者・鷺田清一さんが、人の話を「聴く」という日常生活でも大切なことについて述べた、魅力的な評論の文章です。私は鷺田さんのものの見方や考え方を、子どもたちにつかり読み取ってほしいと思い、「評論を読む・評論を語る」という単元を設定しました。

第一時 学習の流れと目標の確認 筆者の価値観を読み取る

初めに、一学期に学習した「『批評』の言葉をつめる」（竹田青嗣）の話を、子どもたちにしました。哲学者である竹田さんの文章を読んで、「なるほどなあ」とみんなで納得したことを思い出させ、今回は同じ哲学者である鷺田さんが書いた評論の文章を読んでいくことを告げました。

私は、「評論を読む」ためには、まず「筆者の価値観を読み取る」ことが大事だと考えています。しかし、子どもたちの中には、筆者の価値観を捉える前に、自分の価値観で批判的に読んでしまう子があります。そのため、教材文から、筆者の価値観を定義つけて付箋紙に書き出させることにしました。そうすることで、主観を交えずに筆者の価値観を読み取らせることができると考えたからです。

全文を音読する前に、付箋紙を配布します。「鷺田さんがどんな価値観をもっているのか考えながら読んでいきましょう。板書にも示したように、価値観が書かれている部分を定義づけしながら、付箋に書き出していつてください。『はーである』と、教科書の文章をそのまま書き出してもいいですし、自分の言葉で書いてもいいです」。

そう話し、教材文を音読しました。

子どもたちは真剣に耳を傾けていました。音読を聞いた後、付箋紙に「聴く」ということは、受動的な行為ではない」「人は語るとき、聴く人を求めている」など、筆者の価値観がわかる部分を書き出していきまし。それらの付箋紙はB5の用紙に貼り、提出させました。

聴くということ

——評論を読む—— 評論を語る——

1. 文章を読む
2. 筆者の価値観を探る

ものの見方・考え方をとらえる

☆その人はどんな価値観をもっているか

著者の価値観を、ふせんに書く。

聴くということは

人はい

価値観

「はーである」
定義づけしてみる

▲第1時の板書

第二時 筆者の価値観について、 自分の考えをまとめる

「評論を読む」ためには、筆者の価値観を読み取るだけでなく、それについて自分はどう思うのかということまで考えさせなければいけません。本時では、前時で読み取った筆者の価値観について、自分はどう考えるのかを、文章にまとめていきます。「聴くということ」では、筆者の価値観が

抽象的に書かれているので、自分の具体的な体験と結び付け、筆者の価値観についてどう思うのかまとめていくよう伝えました。前時で集めた付箋紙の中で、筆者の価値観をうまく定義づけているものを十六枚選んで一覽（左参照）にし、配布しました。1～16の中からテーマを一つ選び、自分の体験を交えて、四百字以内で考えをまとめていきます。大体の子どもが、二十分ほどで文章を書きあげていました。うまく書けない子には、机間指導で書きだしを私

1. 聴くということは、相手の話をよく聴くことである。	2. 人は、相手の話をよく聴くことである。	3. 人は、相手の話をよく聴くことである。	4. 人は、相手の話をよく聴くことである。	5. 人は、相手の話をよく聴くことである。	6. 人は、相手の話をよく聴くことである。
7. 人は、相手の話をよく聴くことである。	8. 人は、相手の話をよく聴くことである。	9. 人は、相手の話をよく聴くことである。	10. 人は、相手の話をよく聴くことである。	11. 人は、相手の話をよく聴くことである。	12. 人は、相手の話をよく聴くことである。
13. 人は、相手の話をよく聴くことである。	14. 人は、相手の話をよく聴くことである。	15. 人は、相手の話をよく聴くことである。	16. 人は、相手の話をよく聴くことである。	17. 人は、相手の話をよく聴くことである。	18. 人は、相手の話をよく聴くことである。

評論を読む
——自分の体験から——

▲生徒から集めた付箋の中から16枚を選び、一覽にして配布した。

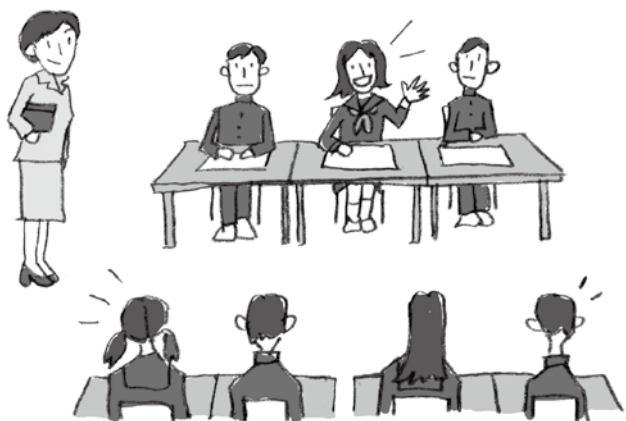


第三～五時
シンポジウム形式で発表する
発表を聞いて、自分の考えを深める

前時にまとめた文章を集めて冊子にし、配布しました。1～16のテーマごとに発表をしていきます。発表はシンポジウムの形式をとることにしました。シンポジウムはあるテーマについて、複数の論者が意見を述べ、聴衆は質疑応答を通してテーマに対する考えを広げるといふ話し合いの方法です。今回は、同じテーマを複数の子どもが選んでいたことと、みんなで話し合って知見を広めていく楽しさを味わってほしいと考えたため、この方法をとりました。

テーマごとに子どもたちが前に出て、発表をします。聴衆側は、質問したい箇所をマーカーで引きながら聞き、発表が終わったら質問します。

シンポジウムでは、発表に対してポンポンと質問が出されるというより、発表が終わると、一つ質問が出て、それについて全員がじっくりと考えるといった様子が見られました。子どもたちからは、「話すより聴くほうが大変なんだね」「聴くことは、お休みじゃないんだ」「うーん、聴くことは難しいなあ」などの感想が出されました。



教師が司会を務め、シンポジウムを進行していく。

普段何気なく行っている「聴く」という行為をさまざまな角度から見ることができ、「聴く」ことがとても奥深いことを、みんなで実感することができたと思います。すべての発表が終わった後、「あとがき」として、授業の感想を書かせました。その一部をご紹介します。

「『聴くということ』について考えさせられた」「友達の発表を聞いて、『そんな考え方があるんだ』と驚いた」などの感想が多く見られ、シンポジウムを通して、自分の見方や考え方を広げることができたようです。

教材文に書かれた抽象的な内容を、自分の具体的な体験と照らし合わせて吟味するということは、三年生だからできることです。「聴くということ」は、三年の最後にふさわしい魅力的な教材だと、授業をしてみて改めて感じることができました。

- ・聴くということを、さまざまな視点で見ることができました。
- ・友達の考えに共感したり、考えさせられたり、とても楽しい時間でした。
- ・自分の考えが深まったと思いました。
- ・みんなが実体験をふまえて発表してくれたので、わかりやすかったです。
- ・たくさんの見方や考え方を知ることができ、クラスのみんなに感謝したいです。

2.

人	口	相	手	が	自	分	に	関	心	が	あ	る	の	か	ら	い	は
そ	の	聴	き	方	で	す	ぐ	に	わ	か	る	も	の	が	あ	る	は
私	が	家	に	い	る	時	、	親	が	日	の	南	に	い	る	こ	の
日	の	話	を	し	か	つ	た	話	や	嵐	の	話	を	始	め	る	の
日	の	話	を	し	か	つ	た	話	や	嵐	の	話	を	始	め	る	の
こ	う	真	面	に	、	嵐	な	ら	興	味	無	し	と	い	、	た	様
聴	い	て	い	る	。												
書	類	に	何	か	記	入	し	て	い	る	こ	の	な	ら	、	相	手
え	返	。て	こ	の	い	。											
歳	の	話	は	科	理	中	で	も	ど	ん	な	に	眠	そ	う	に	し
て	い	て	も	と	に	か	く	興	味	な	さ	う	に	適	当	に	相
親	を	打	っ	て	い	る	。										
と	す	ぐ	に	逃	げ	て	い	ま	う	。							
話	し	手	の	話	に	興	味	や	関	心	が	な	く	も	聴	き	手
は	話	を	聞	い	て	い	る	。									
き	に	相	手	を	打	っ	た	り	、	質	問	も	な	い	。		
な	ら	相	手	で	話	し	手	に	は	関	心	の	有	無	が	わ	か
ま	う	の	だ	。													

日4 20×20 このまな板は同版は同生版を使用しております。

が書いたり、言葉を補ったりして、フォローしました。

左に示したのは、「2. 人は、相手が自分に関心があるのかどう

かは、その聴き方ですぐにわかるものである。」と「3. 人は、相手に関心がないと見えないものがある。」で書いた子の文章です。このように、多くの子どもたちが、

3.

人	は	、	相	手	に	関	心	が	な	い	と	見	え	な	い	も	の	が	あ
る	も	の	で	あ	る	。													
初	め	て	見	る	集	団	の	人	々	は	、	大	体	み	ん	な	同	じ	
顔	に	見	え	て	し	ま	う	。											
部	活	の	大	会	な	ど	他	校	が	集	ま	る	所	へ	行	く	と	同	
じ	よう	な	顔	が	た	く	さん	ある	。										
じ	顔	な	わ	け	は	無	く	、	し	ば	ら	く	じ	つ	と	見	て	い	
ば	へ	の	へ	の	も	へ	じ	顔	が	人	間	の	顔	へ	と	進	化	する	
こ	れ	は	私	が	そ	の	人	に	関	心	を	持	っ	た	こ	と	に	よ	
起	き	た	の	で	あ	る	、	そ	の	他	大	勢	は	残	念	な	が	ら	
へ	の	へ	の	も	へ	じ	顔	と	か	か	れた	顔	の	ま	ま	で	あ	る	
こ	の	こ	と	は	、	聴	く	こ	と	に	も	通	じ	て	い	る	。	相	
手	が	興	味	の	無	い	話	、	た	と	え	自	慢	話	を	し	て	い	
も	「	こ	の	人	は	ど	れ	だ	け	私	を	イ	ラ	ッ	と	さ	せ	られ	
る	だ	ら	う	？	」	と	思	う	だ	け	で	、	相	手	に	関	心	を	
つ	こ	と	に	な	る	。													
相	手	の	話	、	相	手	が	伝	え	た	こ	と	は	相	手	に	関	心	
向	け	れ	ば	、	新	た	に	見	え	て	く	ん	の	が	あ	る	の	だ	

日4 20×20 このまな板は同版は同生版を使用しております。

自分の体験に照らして、筆者の価値観について自分はどう思うのか書くことができました。

次時では、書いた文章を発表させます。